

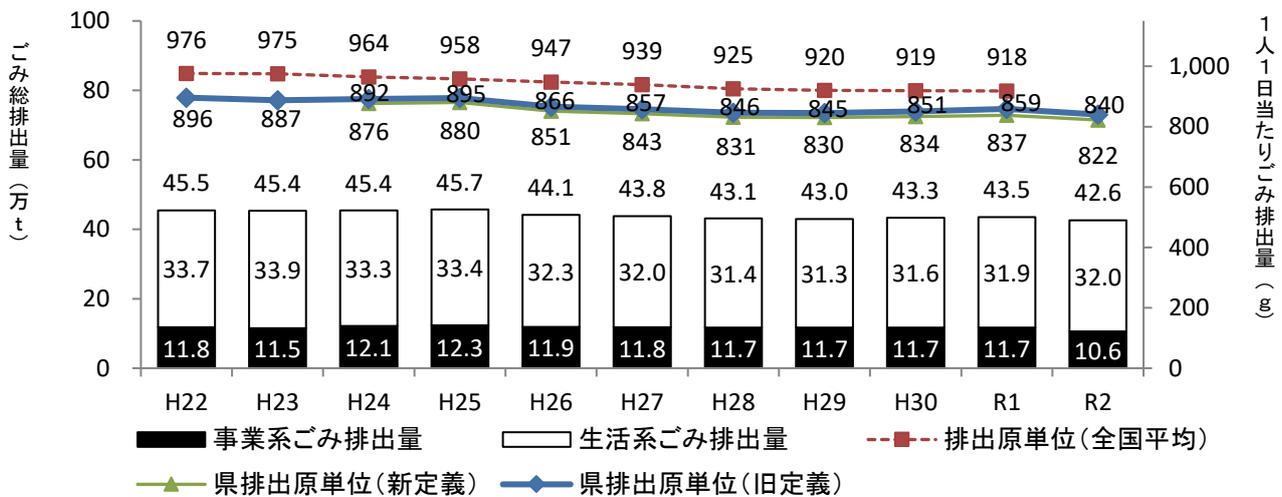
滋賀県廃棄物処理計画の進捗状況について

1. 一般廃棄物（ごみ）

(1) ごみ排出量の状況

- ごみ排出量および1人1日当たりごみ排出量は、平成26年度から減少傾向であったが、平成30年度から令和元年度までやや増加したのち、令和2年度は一転減少した。
- 令和2年度の1人1日当たりごみ排出量は822gとなり、前年度比で15g減少し、これまでで最も低い値を更新した。
- 令和2年度ごみ排出量のうち、生活系ごみは横ばいであるが、事業系ごみが大きく減少した。

図表1 ごみ排出量の推移



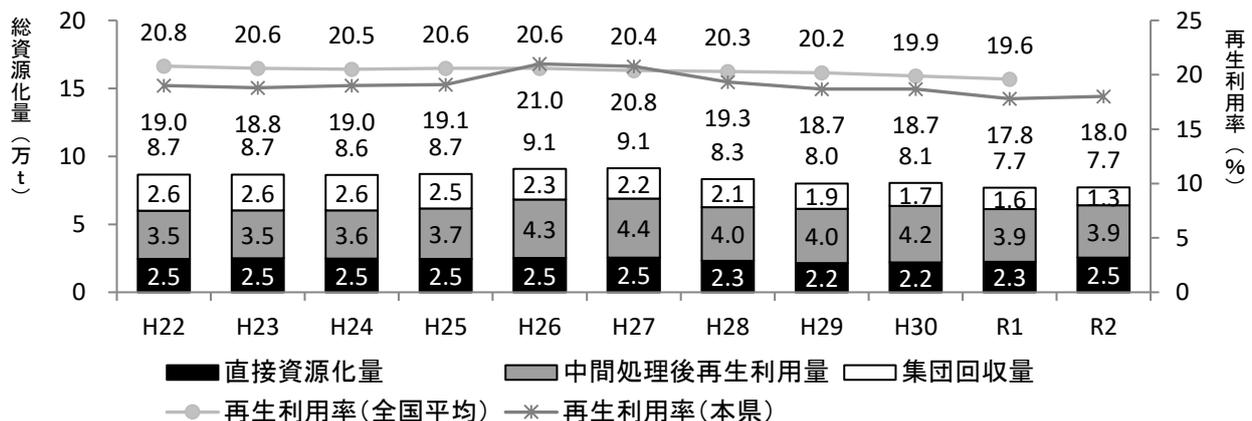
※ 住民基本台帳法改正に伴いH24年度より総人口に外国人人口を含むこととなったため、1人1日当たりごみ排出量は、H24以降は「新定義(外国人人口含む)」と「旧定義(外国人人口含まない)」の数値をグラフ上に併記。

※ 国の排出原単位は、H23まで旧定義、H24からは新定義

(2) 再生利用(リサイクル)の状況

- 総資源化量は、平成28年度から約8万tで推移し、前年度より0.9万tの減少。
- 直接資源化量は、0.2万t増加している。
- 集団回収量は、1.3万tとなり、これまでで最も低い値である。
- 再生利用率(リサイクル率)は、平成27年度から減少傾向である。

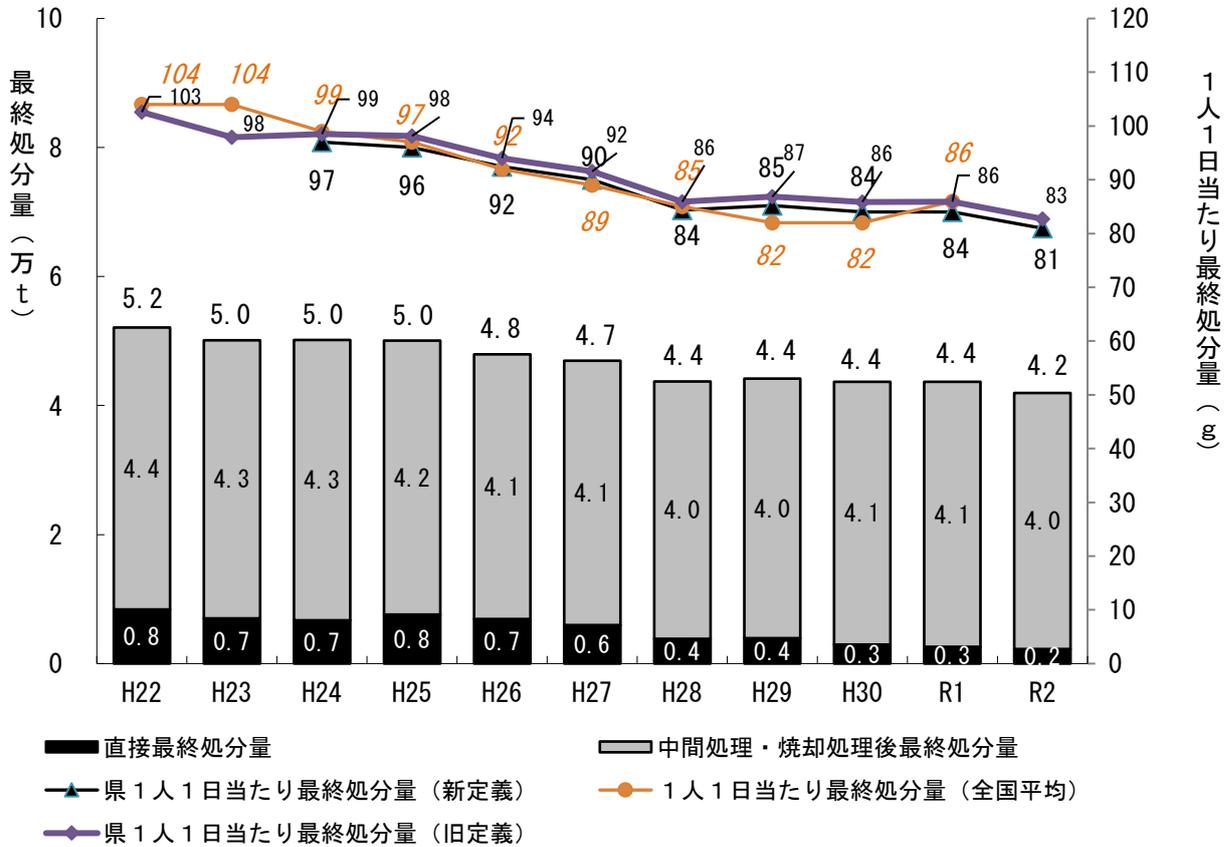
図表2 ごみの再生利用率等の推移



### (3) 最終処分量の状況

- 最終処分量は、平成 28 年度以降、増減を繰り返しており、横ばいである。
- 1 人 1 日当たり最終処分量は 81g となり、前年度比で 3g 減少し、これまでで最も低い値を更新した。

図表3 ごみの最終処分量の推移



#### (4) 一般廃棄物（ごみ）に係る計画の数値目標の達成状況

- 計画における数値目標の達成状況は以下のとおり。

図表4 一般廃棄物（ごみ）に係る計画の数値目標の状況

		実績値									四次計画 目標値	五次計画 目標値
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R2	R7
ごみ総排出量	万t	45.7	44.1	43.8	43.1	43.0	43.3	43.5	42.6		参考指標 42.5	参考指標 41.3
1人1日当たり ごみ排出量	g	880	851	843	831	830	834	837	822		820	804
総資源化量	万t	8.7	9.1	9.1	8.3	8.0	8.1	7.7	7.7		参考指標 9.5	参考指標 7.7
再生利用率	%	19.1	21.0	20.8	19.3	18.7	18.7	17.8	18		参考指標 22.4	参考指標 18.5
最終処分量	万t	5.0	4.8	4.7	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2		参考指標 4.3	参考指標 4.2
1人1日当たり 最終処分量	g	96	92	90	84	85	84	84	81		82	82

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R7
マイバッグ持参率 (レジ袋辞退率)	%	89.2	89.7	89.9	89.5	89.6	89.4	90.1	90.8		85以上 (計画期間中)
県内のマイボトル使 用可能な給水等ス ポット数	箇所			16	20	21	21	23	22	56	100
食品ロス削減を認知 して削減に取り組む 消費者の割合	%								78.3	80.7	80以上
「三方よしフードエコ 推奨店」の累計登録 店舗数	店						102	118	211	274	300
市町災害廃棄物処 理計画の策定率	%					5.2	21.1	42.1	73.7	89.4	100 (令和6年度までに)
「環境美化の日」を 基準とした環境美化 運動参加者数	人	266,641	249,478	247,896	232,979	249,338	266,195	231,814	133,812	172,321	1,200,000 (計画期間累計)

#### (5) 現状・課題と今後の方向性

##### <現状・課題等>

- 令和2年度に限りごみ排出量等は大きく減少したが、新型コロナ蔓延の影響によるところが大きいと考えられ、取組の成果が見えにくい。
- 最終処分量は、長期的には減少傾向が続いているが、近年は横ばい。

##### <今後の方向性> ※詳細は別紙「施策の取組状況等」のとおり

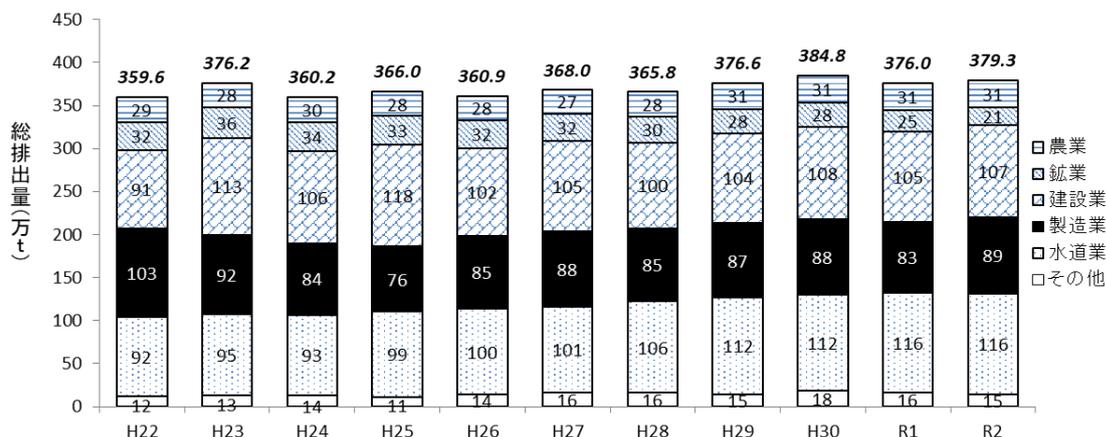
- ⇒既存レジ袋協定内容の見直しにあたり、レジ袋以外のプラスチックごみ削減等の新たな取組も追加した「(仮)しがプラスチックごみ削減行動宣言」の実施、促進を図る。
- ⇒プラスチック資源循環促進法による影響や効果を踏まえつつ、多様な主体とのフードドライブの実施促進などにより、プラスチックごみおよび食品ロス削減に向けた取組を一層推進する。
- ⇒上記リデュースの取組を一層推進するとともに、リユース(物を廃棄せずに再使用)や、再生利用可能なごみに係る県民向けの情報提供・啓発を引き続き実施。

## 2. 産業廃棄物

### (1) 排出量の状況

- 総排出量は、平成 21 年度以降、微増微減をくり返しており、令和 2 年度は 379.3 万 t で令和元年度より 3.3 万 t 増加。
- 業種別では、水道業（下水道業を含む）が 31%、建設業が 28%、製造業が 23% を占める。

図表 5 産業廃棄物の排出量の推移



図表 6 産業廃棄物品目別・業種別排出量（令和 2 年度）

業種別の産業廃棄物の総排出量

(単位: 千t/年)

種類	合計			農業	鉱業	建設業	製造業	水道業	その他
	令和2年	比率	令和元年						
燃え殻	4	0%	3	0	0	0	2	1	1
汚泥	1,950 (211)	51%	1,980 (256)	1	208	45	517	1,158	20
廃油	50	1%	50	0	0	1	44	0	5
廃酸	17	0%	18	0	0	0	17	0	0
廃アルカリ	53	1%	64	0	0	1	52	0	1
廃プラスチック類	186	5%	185	1	0	33	107	0	45
紙くず	8	0%	7	0	0	4	2	0	1
木くず	121	3%	136	0	0	104	9	0	7
繊維くず	1	0%	1	0	0	0	0	0	0
動植物性残さ	21	1%	24	0	0	0	20	0	0
ゴムくず	0	0%	0	0	0	0	0	0	0
金属くず	28	1%	27	0	0	9	7	0	12
ガラス・陶磁器	143	4%	121	0	0	30	76	3	34
鉱さい	16	0%	15	0	0	0	16	0	0
がれき類	820	22%	763	0	0	820	0	0	0
ばいじん	8	0%	7	0	0	0	1	3	4
家畜ふん尿	309	8%	310	309	0	0	0	0	0
家畜の死体	0	0%	0	0	0	0	0	0	0
その他	58	2%	47	0	0	26	18	0	14
合計	3,793 (2,054)	100%	3,760 (2,036)	311	209	1,074	888	1,165	146

※1 ( )内の数値は、汚泥を事業所内での脱水後の汚泥量で捉えたもの。

- 品目別の排出量は、汚泥が 195.0 万 t で全体の 51% を占め、以下、がれき類(82.0 万 t, 22%)、家畜のふん尿(30.9 万 t, 8%)、廃プラスチック類(18.6 万 t, 5%) の順に多い。全国と比較して汚泥とがれき類の比率が高い一方で、家畜ふん尿の比率が低いのが本県の特徴。

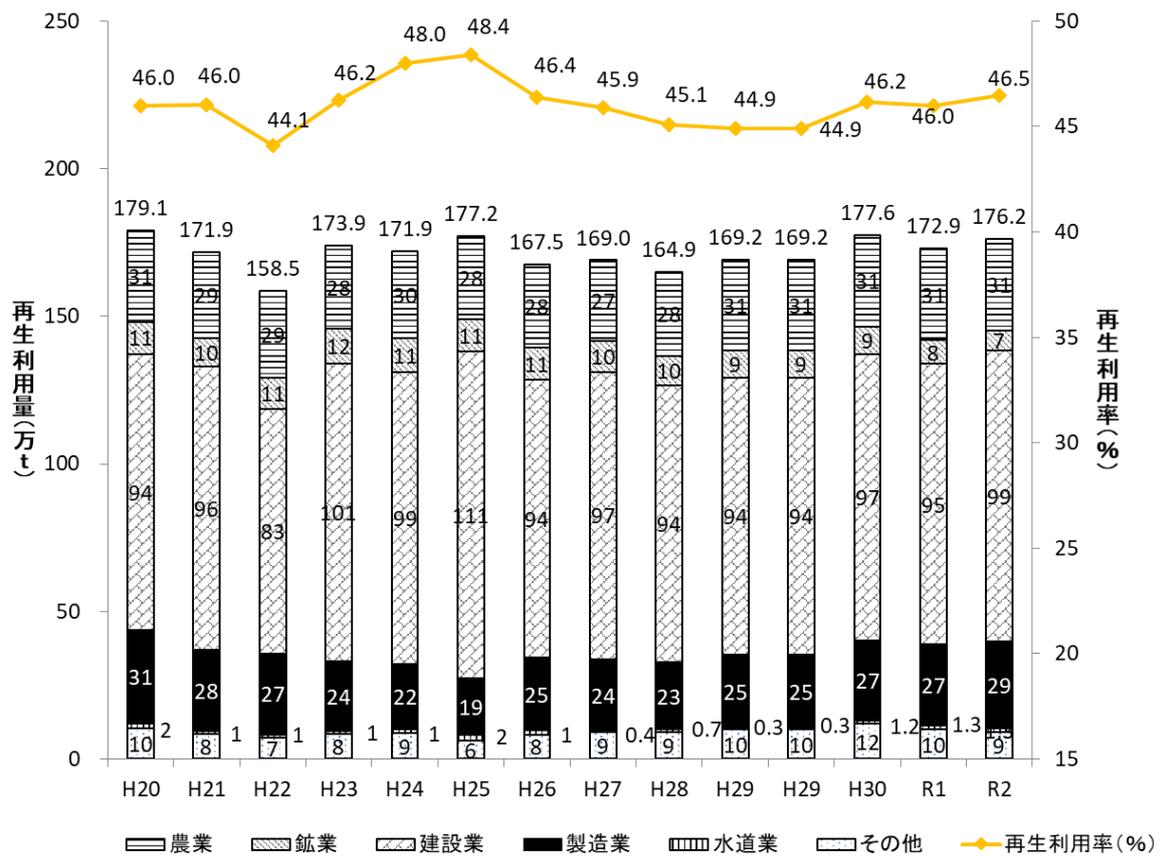
※ 全国 (R1 実績) : 汚泥 : 44%、家畜ふん尿 : 21%、がれき類 : 15%、

- 令和元年度と比較すると、がれきが 5.7 万 t、ガラス・陶磁器くずが 2.2 万 t、増加した一方で、汚泥が 3.0 万 t、木くずが 1.5 万 t 減少。

## (2) 再生利用量の状況

- 再生利用量は、平成 23 年度以降、微増微減を繰り返しており、令和 2 年度は 176.2 万 t で、令和元年度より **3.3 万 t 増加**。
- 再生利用率は、平成 26 年度以降、低下傾向であったが、平成 30 年度以降増加傾向にあり、令和 2 年度は 46.5% で、令和元年度より **0.5% 増加**。

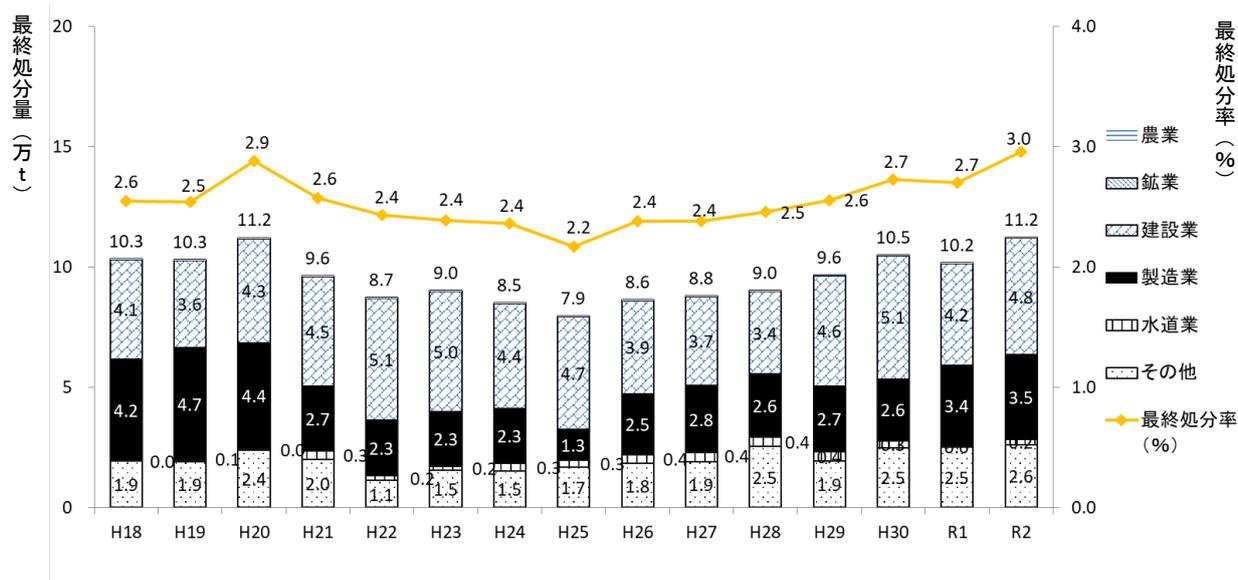
図表 7 産業廃棄物の再生利用量の推移



### (3) 最終処分量の状況

- 最終処分量は、平成 21 年度以降、微減増減を繰り返しており、令和 2 年度は 11.2 万 t で令和元年度より **1.0 万 t 増加**。
- 計画の目標値の 9.8 万 t まで、**1.4 万 t 削減が必要な状況**。
- 最終処分率は、平成 21 年度以降、微減増減を繰り返しているが、近年増加傾向にあり、令和 2 年度は 3.0% で令和元年度より、**0.3% 増加**。
- 品目別にみると、「廃プラスチック類」「ガラス陶磁器くず」、「がれき類」、「その他（混合物等）」の最終処分量の比率が多い。

図表 8 産業廃棄物の最終処分量の推移



図表 9 産業廃棄物最終処分量の品目別状況

品目	最終処分量(万t)							
	H29		H30		R1		R2	
	比率	比率	比率	比率	比率	比率	比率	
燃え殻	0.5	5%	0.2	2%	0.3	2%	0.2	2%
汚泥	0.9	10%	1.0	10%	1.1	11%	1.1	10%
廃油	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%
廃酸	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%
廃アルカリ	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%
廃プラスチック類	1.7	18%	2.3	22%	2.2	22%	2.0	17%
紙くず	0.0	0%	0.1	1%	0.1	1%	0.1	1%
木くず	0.2	2%	0.3	3%	0.5	5%	0.4	4%
繊維くず	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%
動植物性残さ	0.0	0%	0.1	1%	0.1	1%	0.1	0%
ゴムくず	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%
金属くず	0.1	1%	0.1	1%	0.1	1%	0.4	4%
ガラス陶磁器くず	2.7	28%	1.8	17%	2.2	22%	2.7	24%
鉱さい	0.1	1%	0.1	1%	0.2	2%	0.1	1%
がれき類	1.6	17%	1.8	17%	0.8	8%	1.0	9%
ばいじん	0.4	4%	0.4	4%	0.4	4%	0.4	4%
動物のふん尿	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%	0.0	0%
その他(混合物等)	1.2	13%	2.3	22%	2.1	21%	2.6	23%
合計	9.6	100%	10.5	100%	10.2	100%	11.2	100%

#### (4) 産業廃棄物に係る計画の数値目標の達成状況

- 計画における数値目標の達成状況は以下のとおり。

図表 10 産業廃棄物に係る計画の数値目標の達成状況

		実績値								四次計画 目標値	五次計画 目標値
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R2	R7
総排出量	万t	366	361	368	366	377	385	376	379	参考指標 365	参考指標 385
発生量	万t	202	201	204	195	202	211	204	205	参考指標 203	参考指標 209
再生利用量	万t	177	167	169	165	169	178	173	176	参考指標 177	参考指標 176
再生利用率	%	48	46	46	45	45	46	46	47	参考指標 49	参考指標 46
最終処分量	万t	7.9	8.6	8.8	9.0	9.6	10.5	10.2	11.2	7.4	9.8

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R7
優良産廃処理業者 認定数	件						160	181	186	270
廃棄物処理施設や 産廃処分業者への 立入検査実施率	%	100	100	100	100	100	100	100	99.8	100 (計画期間中)
産業廃棄物不法投 棄等の発生年度内 解決率	%	89.1	85	86.8	86.1	89.8	88.9	79.3	85.7	85以上 (計画期間中)

#### (5) 現状・課題と今後の方向性

##### <現状・課題等>

- 総排出量は、微増微減を繰り返しており、令和2年度は増加。景気動向、とりわけ建設業や製造業の動向に留意する必要がある。
- 再生利用量および最終処分量は、総排出量の増加に伴い増加。
- 再生利用率は、横ばい。

##### <今後の方向性> ※詳細は別紙「施策の取組状況等」のとおり

- ⇒処分量が増加している廃プラスチックについて、プラスチック資源循環促進法の効果や国施策の動向を注視しつつ、事業者に対するプラスチックの使用削減に向けた啓発を強化する。
- ⇒引き続き事業者による産業廃棄物の発生抑制・資源化に係る研究開発・施設整備等を促進する。
- ⇒ICT技術等活用推進に資する情報の収集・提供および周知や支援方法を検討する。
- ⇒産業廃棄物のリサイクルを促進するため、滋賀県リサイクル製品認定制度<sup>1</sup>に基づく認定製品について、県や市町の公共工事、民間での利用を推進する。

<sup>1</sup> 主に県内で発生する循環資源（廃棄物や製造過程で発生した副産物、木材等）を利用し、県内事業所で製造加工される製品（コンクリート二次製品、改良土、堆肥など）について、一定の基準に適合するものを認定。